

白浜大会のこと

成城大学教授 工藤弘安

今年は正月早々南紀に出かけた。正月ぐらいい家はのんびりしたら、という意見もあるが、地方に出かけると、東京ではもう久しくみられなくなった昔ながらのしきたりや、その土地独特の香味にあふれた正月料理にふれることができ、それが楽しみで、このところ正月休みは東京にいたことがない。

旅先に南紀を選んだのは、たまたま宿が空いていたせいもあるが、昭和48年に南紀白浜で全国統計大会が開催されたおり、筆者は行政管理庁統計企画課長の職にあつて、とても観光どころの騒ぎではなかったのだ、そのうち定年退職でもしたら、ゆっくり南紀一周を楽しもうと心に決めていたからである。つまり白浜は12年ぶり2度目の訪問であったが、高層ホテルの林立する町並にはもはや昔日の面影はなく、白良浜に腰をおろしてながめる夕日の美しさだけが、時間をこえた静けさのなかにあつた。

白浜町での全国統計大会は、10月30、31日の2日間、全国から約2,500名の参加者をえて盛大に開催されたが、それは筆者が在官中にお手伝いした数ある大会のなかでも、最も思い出深い大会のひとつとして心のなかに焼きついている。当時この大会の組織運営にあたられた方々も、多くはすでに第一線を退かれていますと思われるので、この白浜大会の、いわば大会史上の意義といった点を、おぼろげな記憶をたどりながら記しておきたい。

この大会の意義は、要約して三つあつたように思う。そのひとつは、大会に先立って、大会の議事の検討資料とするために、全国の統計関係従事者約14,000人を対象とする大規模な意識調査が、都道府県と大会事務局との共同事業として実施されたことである。この実態調査は、都道府県統計職員（約500名）、市町村統計職員（約3,200名）、統計調査員（約4,600名）のほか、指定統計調査の調査客体（約5,000）をも対象に含めた4種類の調査から構成され、調査項目は全体で77項目に及ぶ広汎なものであつた。

大会のための資料づくりという直接の動機は別としても、この調査のもつ何よりの意義は、それが中央からの押しつけによって実施されたものではなく、あくまで地方統計関係者の自発的な意志によって企画されたものであつたという点にある。紙面の都合から調査結果の紹介は割愛させていただくが、調査の行われたのは昭和48年5月であつたか

ら、まさに石油ショック直前の高度経済成長のさなかにおける、我が国の統計関係者の意志を浮き彫りにしているという意味で、歴史的価値の上からも見落とすことのできな貴重な資料である。

白浜大会の第二の意義は、大会の議事が2日間にわたって進められたことである。すなわち第1日には、テーマ別に三つの分科会が組織され、それぞれ約100人の地方統計職員に参加のもとに、前記の意識調査の結果を素材とした討議が行われ、ついでそれぞれの分科会の討議の結果が、各省庁の統計主管部局長をまじえた全体会議において報告され、そこで約1時間に及ぶ熱気あふれる討論が行われた。白浜大会の議題は、「地方の意志を中央に反映した統計づくりの実現を期する」というものであつたが、議事はこの第1日の討論を経て、第2日の大会参加者全員の注視のなかで進められ、大会の決議要望、そして宣言に集約されたのであつた。

大会の第三の意義は、これこそまさに歴史的な意義であるが、この大会が「統計の日」制定記念の大会であつたことである。統計の日の由来については、すでに何回か統計通信に寄稿したことがあるのでここでは省略するが、そもそも統計の日制定の発議が公式に行われたのは、白浜大会の前年、福島市で開催された全国大会の席上であり、大会参加者の総意によって決議要望されたのであつた。福島大会の議題は、「統計需要の拡大に対応する調査環境の整備について」であつたが、統計の日は、調査環境の改善という全国の統計人共通の問題意識のなかで決議されたのである。

統計の日制定の披露は、白浜大会のハイライトとして、当時の福田赳夫行政管理庁長官から行われた。福田長官は大変統計を大事にされた方であつたが、長官を補佐して大会に同席された当時の事務次官は、戦後、統計法の起草に参画された河合三良氏であつた。そして白浜大会のしめくりは、「統計の日の制定とその課題」と題する、森田優三統計審議会会長の格調高い記念講演であつた。まことに失礼な表現であるが、大会史上まれにみる千両役者のそろつた大会としても、白浜大会にまつわる思い出はつきることがないのである。

昭和60年度主要統計研修等実施計画について

統計課では、本県の調査統計事務を総括する立場から、統計調査の資質向上と統計思想の普及高揚等の使命を受けております。

したがって、各種研修の性格、目的が広く理解され、職員研修の体系的一環として統計行政を担う優秀な人材を育成するため、各般にわたる研修等を実施します。一方、中央で実施される研修への派遣も計画的に行い、濃密で広範

な対応を進めております。

60年度は、近年の研修需要にこたえるべく研修内容を充実し、研修生の期待や、そのレベルに応じた内容で計画する予定ですので、それぞれの研修のねらいを熟知されまして、多くの方々が参加されますよう期待しております。

なお、各研修内容の詳細については、決定しだいその都度ご案内する予定です。（統計課・統計指導グループ）

昭和60年度主要統計研修等実施計画一覧

主催機関名	研修名	実施予定 期 日	実施予定 期 間	対 象 者	内 容	備 考
茨 城 県	統計グラフ指導者講習会	60. 6	1 日	小・中学校の教職員及び市町村職員	統計グラフの指導者としての知識及び技術を修得する。	県内3地区で開催
	統計調査員研修会	60. 5	2 日	統計調査員	統計調査員の実務的な研修。	
	地方統計職員業務研修会 基 礎 専 門	60. 7 61. 2	4 日 2 日	統計事務に従事する市町村及び県職員	統計業務に必要な、基礎的、専門的知識を修得する。	
	統計実務講習会	61. 3	1 日	市町村及び県職員	統計業務に必要な実務的知識、及び技術を修得する。	
	統計事務改善研究会	60.11	2 日	統計調査員、市町村及び県職員	統計調査に関する諸問題を研究し、その改善をはかる。	
総 務 庁 統計研修所	基礎研修コース 本科課程	60. 4 ～ 9 60.10 ～ 61. 3	6 ヶ月	市町村及び県の統計関係職員	研修科目についてできるだけ広範囲をカバーした長期の基礎コース。	年2回開催
	短期研修コース 専科基礎課程	60. 5 ～ 6 60.10 ～ 11 61. 1 ～ 2	5～6 週間	市町村及び県の統計関係職員	研修生の目的に応じて範囲をある程度特定した短期のコース。	調査と分析、分析、係長主査の3コースを設ける
	専科上級課程	60. 6 ～ 8	5週間	市町村及び県の統計関係職員 (本科課程又は専科基礎課程修了者)	基礎理論を学習した上で、実例について理解を深め、自主研究を通じて「地域分析」の手法を研修する。	
	特別講座	60. 6 12 61. 3	4～5日	市町村及び県職員	テーマを絞り、広範囲の人を対象とする研修。	年3回開催
全国統計協会 連 合 会	一 般 研 修	60. 7	6 日	県統計専任職員	統計の理論と応用、統計の作成と利用方法などの知識及び技術を修得する。	
	指 導 者 研 修	60. 8	2 日	県統計専任職員	地方統計職員の指導育成に必要な知識及び技術を修得する。	
	統計実務講習会	60.12	2 日	制限なし	統計業務に必要な基礎的知識及び技術を修得する。	
	統計グラフ指導者講習会	61. 3	2 日	統計グラフの指導者、作成者及び利用者	統計グラフの指導者としての知識及び技術を修得する。	

昭和59年度全国優勝者表彰

全国統計グラフコンクール一席入選の
 結城中 { 上野 澄恵 さん
 高野 真希 さん に知事表彰
 館野 典子 さん

昭和57年7月に制定された、全国、国際競技等優勝者表彰要綱に基づく昭和59年度の表彰が昭和60年3月1日水戸市大町の茨城県公館において行われました。

この表彰は、県内に居住する個人(県出身者並びに県内の事業所、団体、学校等に籍を有する者及び有した者を含む)又は県内の団体、学校等で、国又は全国団体もしくは国際団体の主催するスポーツ大会、コンクール、品評会、共進会、審査会等において優勝(国際競技においては2、3位入賞を含む)したものに対して、知事が褒状及び記念品を贈って表彰するものです。

統計課関係では、結城紬の後継者問題をテーマにして「気になる結城紬の将来」というタイトルの統計グラフを制作して茨城県が実施した統計グラフコンクールに応募、知事賞を受賞し、更に全国統計グラフコンクールにおいて見事第3部(中学生の部)で一席に入選した、結城市立結城中学校1年生の上野澄恵さん、高野真希さん、館野典子さんの3人が表彰されました。

3人合作のこのグラフは、伝統ある結城紬の将来を心配し、何とかしなければという気持ちがにじみ出ている着想の良い作品で、背景の図柄や棒グラフにカスリ模様を入れるなどの工夫もあり大変に立派な作品でした。

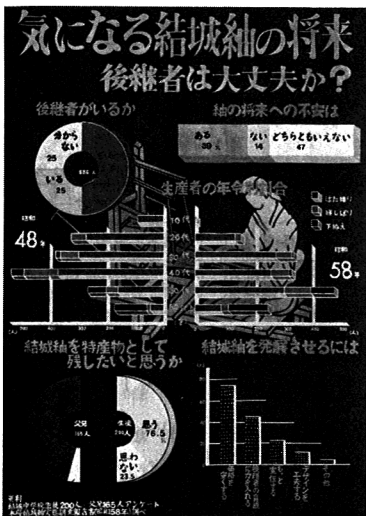
結城地区は、例年、茨城県統計グラフコンクールにおいて、応募作品、入選作品ともに県のトップクラスで、全国コンクールにおいても従来から上位入賞をはたしています。

表彰式当日は、早春の小雨模様の中を統計教育担当の小川先生と共に上野さん、高野さん、館野さんが制服姿で出席、それぞれ竹内精一副知事から褒状と記念品が授与されました。

式典後、受賞された方々がそれぞれ優勝にまつわる感想等を発表され、列席した方々も感慨深く耳をかたむけておりました。グラフ関係受賞者を代表して館野典子さんがグラフ作成の苦労話や受賞の喜びを語り列席者の方々の盛大な拍手をうけました。

最後に竹内副知事を囲んで記念撮影をして散会しました。

(統計課・統計指導グループ)



受賞作品



左から高野真希さん、上野澄恵さん、竹内副知事、館野典子さん、小川先生、大友前統計課長